

令和3(2020)年3月16日

男児の健やかな成長と幸せを願う“お守り” 五月人形
コロナ禍に負けない 親の熱い思い 兜・鎧 堅調な売れ行き



こころもからだもすくすく育て (東京・浅草橋 吉徳本店)

奈良・平安時代に端を発し、脈々と受け継がれてきた日本独自のゆかしい年中行事「端午の節句」。主役の男児の傍らに飾られる五月人形。それは、男児の誕生を祝い、健やかな成長と幸せを託す“お守り”的存在です。

株式会社吉徳 (111-8515 東京都台東区浅草橋 1-9-14、創業正徳元年・1711年、資本金1億円、社長：12世山田徳兵衛 <https://www.yoshitoku.co.jp/>) は、今年もまた浅草橋本店をはじめとする全国12の直営店舗にて新型コロナウイルス感染防止策を徹底し、五月人形購入のお客様が安全安心のもとご来店いただけるよう万全の体制を整えております。

昨年見られた“購入自粛” 今期の五月人形商戦に”スライド購入”の期待

商戦はすでに始まっていますが、とくに今年は例年に比べても動きが早い傾向が見られます。

昨年は、2月中旬頃よりコロナ禍が拡がりをみせ、4月初旬には緊急事態宣言が発出。その影響で昨年初節句を迎えたお子様のお人形購入を控えた方がいらっしゃることも踏まえ、今期はそれなりのお客様の購入があるものと捉えております。

なお、吉徳ではことし五月に初節句を迎える長男の数について、2019年厚生労働省人口動態統計から推計し、約21万人前後と考えています。（男女出生数：865,239人、内第1子：400,948人）

五月節句への吉徳の思い 家族の絆 この時期ならではの家庭内お祝い

吉徳はコロナ禍が落ち着き、社会の平穏が戻ることを祈りつつ、五月のお節句には両親の熱い思いが込められた五月人形を飾り、この時期にふさわしい「家庭内のお祭り」として“思い出に残るお祝い”をしていただきたいと願っております。

今年の商戦傾向 展開の中心は「兜飾り」

五月飾りの定番は「兜飾り」と「鎧飾り」です。本年も「兜飾り」中心の展開と見えています。とくに「江戸甲冑」とも呼ばれている兜飾りの和紙小札（わしこざね）シリーズ（平安・鎌倉時代の現存の国宝等を模写縮小。本物の小札は牛革が用いられるが和紙にて再現。「江戸節句人形」伝統工芸士が主に制作。税込143,000円～330,000円）に人気が集まっています。

一般的に、お客様の目は、“素材、作りとも高品質で、サイズはコンパクト”に向いています。平均価格帯は「兜」が18万円前後（税込）、「鎧」は25万円前後（税込）と予測しています。

吉徳これくしょん『五月飾り展』開催 3月20日から

「吉徳これくしょん」は、人形研究家として知られた吉徳10世山田徳兵衛（1896-1983）の遺した研究資料を主体とする日本有数の人形玩具のコレクションです。端午の節句にちなみ、3月20日（金）～5月5日（火）の間、本社4Fのこれくしょん展示室にて吉徳これくしょん所蔵品による「五月飾り展」を開催します。本展では、江戸時代から現代に至る武者人形・甲冑並びに浮世絵や古文献など関連資料を公開します。中でも、今回公開する永徳齋作の鍾馗さまは、唐の玄宗皇帝が病に臥している時、夢のなかに出現して、悪鬼を退治してくれた豪傑です。こわい顔で動きのある勇ましい姿ゆえに、魔除け・厄除けといった端午の節句の本来の意味からも昭和30年代頃までは、武者人形を代表する存在でした。

https://www.yoshitoku.co.jp/about/a_collect



鍾馗人形 昭和初期頃 東京・永徳齋作 高さ23cm

以上